

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年7月5日(2007.7.5)

【公表番号】特表2006-528728(P2006-528728A)

【公表日】平成18年12月21日(2006.12.21)

【年通号数】公開・登録公報2006-050

【出願番号】特願2006-533399(P2006-533399)

【国際特許分類】

**C 0 8 L 27/12 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 L 27/12

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月17日(2007.5.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

A)フルオロエラストマーコポリマーと、

B)  $[CF_2CFH-O-R_f-CF_2CH_2O]_n$  の一般式を有するフッ素化ポリエーテル[式中、nは、 $M_w$  が2000～100,000であるようなものであり、かつ、 $R_f$  は、a)  $(CF_2)_s$  (sは1～10である)、およびb)  $[CF_2CF(CF_3)O]_t(CF_2)_u$  (uは1～10であり、tは1～20である)よりなる群から選択される]と、

C)硬化剤と

を含むことを特徴とする硬化性組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

【表 1】

表 VIII

| 例                           | 実施例 7 | 比較例 D | 実施例 8 | 比較例 E |
|-----------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 硬化特性                        |       |       |       |       |
| ML(dNm)                     | 0.94  | 1.01  | 2.02  | 3.12  |
| MH(dNm)                     | 34.52 | 41.28 | 27.73 | 43.89 |
| デルタ M(dNm)                  | 33.58 | 40.27 | 25.71 | 40.77 |
| Ts2(分)                      | 1.17  | 1.05  | 1.47  | 1.15  |
| Tc50(分)                     | 1.63  | 1.4   | 2.49  | 2.38  |
| Tc90(分)                     | 3.07  | 2.73  | 3.52  | 3.6   |
| ピーク速度(dNm/分)                | 61    | 110   | 25    | 54    |
| 物理的性質                       |       |       |       |       |
| T <sub>B</sub> (MPa)        | 10.5  | 15.8  | 10.3  | 16.7  |
| E <sub>B</sub> (%)          | 157   | 135   | 182   | 169   |
| M <sub>100</sub> (MPa)      | 7.34  | 12.35 | 6.36  | 10.69 |
| 硬度 Shore A(pts)             | 89    | 94    | 89    | 93    |
| 圧縮永久歪み(%)<br>(200°Cで 70 時間) | 50    | 46    | 56    | 44    |
| TR-10(°C)                   | -18   | -17   | -18   | -14   |

なお、本発明の好ましい態様としては以下のものを挙げるができる。

1. A) フルオロエラストマーコポリマーと、

B)  $[CF_2CFH-O-R_f-CF_2CH_2O]_n$  の一般式を有するフッ素化ポリエーテル [ 式中、 $n$  は、 $M_w$  が 2000 ~ 100,000 であるようなものであり、かつ、 $R_f$  は、a)  $(CF_2)_s$  ( $s$  は 1 ~ 10 である)、および b)  $[CF_2CF(CF_3)O]_t(CF_2)_u$  ( $u$  は 1 ~ 10 であり、 $t$  は 1 ~ 20 である) よりなる群から選択される ] と、

C) 硬化剤と

を含むことを特徴とする硬化性組成物。

2. 前記フッ素化ポリエーテルが 15,000 ~ 45,000 の  $M_w$  を有することを特徴とする 1 に記載の硬化性組成物。

3. 前記フッ素化ポリエーテルが前記式  $(CF_2)_s$  を有する  $R_f$  基を有し、 $s$  が 1 ~ 3 であることを特徴とする 2 に記載の硬化性組成物。

4. 前記フッ素化ポリエーテルが前記式  $[CF_2CF(CF_3)O]_t(CF_2)_u$  を有する  $R_f$  基を有し、 $t$  および  $u$  が 1 であることを特徴とする 2 に記載の硬化性組成物。

5. 前記フルオロエラストマーが a) フッ化ビニリデンおよびヘキサフルオロプロピレン、b) フッ化ビニリデン、ヘキサフルオロプロピレンおよびテトラフルオロエチレン、c) フッ化ビニリデンおよびパーフルオロ(メチルビニルエーテル)、d) フッ化ビニリデン、パーフルオロ(メチルビニルエーテル)およびテトラフルオロエチレン、e) フッ化ビニリデン、テトラフルオロエチレンおよびプロピレン、f) テトラフルオロエチレンおよびプロピレン、g) エチレン、テトラフルオロエチレンおよびパーフルオロ(メチルビニルエーテル)、ならびに h) テトラフルオロエチレンおよびパーフルオロ(メチルビニルエーテル) よりなる群から選択される共重合単位を含むことを特徴とする 1 に記載の硬化性組成物。

6. 前記フルオロエラストマーがヨウ素末端基、臭素末端基、共重合されたヨウ素含有硬化部位モノマー、臭素含有硬化部位モノマー、ビス-オレフィン硬化部位モノマー、ニトリル基含有硬化部位モノマー、トリフルオロエチレン、3,3,3-トリフルオロプロペン-1,1,2,3,3,3-ペンタフルオロプロピレン、1,1,3,3,3-ペンタフルオロプロピレン、2,3,3,3-テトラフルオロプロペン、およびそれらの組合せ

よりなる群から選択される硬化部位をさらに含むことを特徴とする 5 に記載の硬化性組成物。

7．前記硬化剤が有機過酸化物、ポリヒドロキシ化合物、ビス（アミノフェノール）、テトラアミン、有機錫化合物およびアンモニア発生化合物よりなる群から選択されることを特徴とする 1 に記載の硬化性組成物。

8．金属酸化物、金属水酸化物およびそれらの組合せよりなる群から選択される酸受容体をさらに含むことを特徴とする 1 に記載の硬化性組成物。